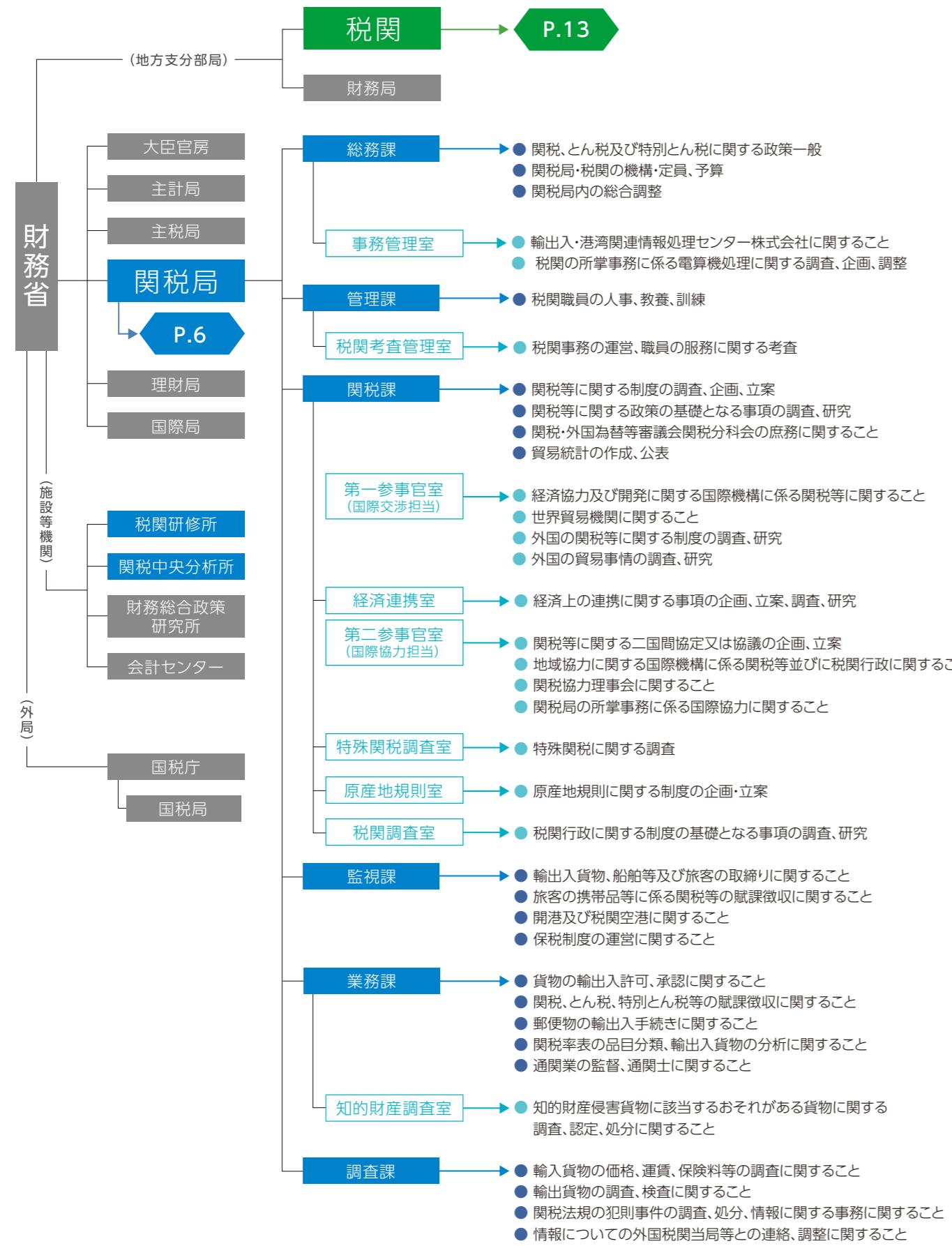


# 財務省税関の組織



## 業務紹介

## 財務省関税局

財務省関税局は、関税政策・税関行政の企画立案、諸外国との交渉・調整、途上国支援等の業務を通じ、直接的・間接的に税関の3つの使命の実現を目指しています。関税局が所掌する幅広い業務について、各担当職員からご紹介します。



関税政策 出井 昌孝

関税政策を通じて未来が見える

P.7



税関行政 伊谷 幸智

移りゆく時代の中で

P.8



税関行政 松崎 貴弘

知的財産侵害物品の水際取締り

P.9



税関行政 山崎 恭子

安全・安心な社会の実現のために

P.10



国際交渉 河村 健太郎

各国の思惑が交錯する国際交渉の最前線で

P.11



国際協力 小田 真史

時代の要請に応え、世界標準をリードする

P.12



## 関税政策

## 関税政策を通じて未来が見える

## 関税の役割と関税課の業務

関税の役割は、一般的に、①国内産業を保護すること、②関税収入という財政収入をもたらすことの2つとされており、現在の日本においては、国内産業保護の役割が重視されています。高い関税が課されている貨物は輸入されにくくなることから、国内生産者は保護されますが、一方で消費者の選択肢を減らすというデメリットもあります。

関税課では、国内産業保護の観点に加えて、消費者に与える影響なども勘案し、関税制度について不斷の見直しを行っています。「関税政策を通じて未来が見える」そんな気がしませんか。

## 記憶に残る業務経験

財務省税関では、前述の法律改正のみならず、幅広い業務に携わることができます。私自身が経験した業務のうち思い出深いものを紹介します。15か国の経済連携の枠組みであるRCEP協定(2022年1月発効)について、大詰めの時期の国際交渉に参加しました。中国や韓国、ASEANなどの国と、ときには対立し、ときには協力しながら、大型協定の合意に向けて尽力しました。また、東日本大震災があった年には、貨物の通関業務を担当していました。被災地のために何か少しでも貢献したいとの想いを持ちつつ、復興のために必要な物資が円滑に通関されるよう努めました。この先も多様な業務に携わることになると思います。皆さんも財務省税関で記憶に残る業務を経験してみませんか。

## 新型コロナウイルスや電気自動車

法律改正と一言にいってもその内容は様々です。例えば、令和3年度改正においては、医療・介護現場において使用されているビニール製の使い捨て手袋について、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、世界

## My private time

働き始めたばかりの若かりし頃は、年末年始、ゴールデンウィークに夏休みと長期休暇のたびに海外旅行に行っていました。中国・北京に赴任した際は、地方都市も含め中国の各所を訪問する機会を得ました。大阪税関で働いていたときは、関西一円の寺社仏閣などを巡りました。

最近はコロナ禍ですし、ネコも飼っていますので、遠出はしていないのですが、近場のちょっとした名所旧跡をよく訪ねています。



## 出井 昌孝

DEI Masataka  
関税局関税課課長補佐  
(特殊関税調査室)  
平成16年度入省



## 税関行政

## 移りゆく時代の中で

## 密輸の阻止と貿易政策の具現化

関税局調査課で総括担当の課長補佐をしています。財務省には調査課と名のつく課は各局に存在しますが、関税局調査課では、密輸事件の犯人を追い詰める犯則調査(investigation)や、適正な輸出入申告がなされていたかを確認するため事業所などを訪問して行う事後調査(audit)、テロや密輸に関する情報収集・分析、外国当局との情報交換(intelligence)に関する施策の取りまとめ、企画・立案を行っています。密輸事件は発生する場所や時間があらかじめ決まっているわけではなく、また外国当局からの連絡も待ったなしの状態で突然舞い込んでくるため、臨機応変な対応が求められる機会も多いものの、目まぐるしく過ぎゆく時間を楽しむ過ごすことができています。

この他、関税局では、経済安全保障の確保に向けた取組みも進めています。世界各国が戦略物資の確保、あるいは重要技術の獲得にしのぎを削っている中で、経済安全保障は喫緊の課題となっており、近年の大国間の対立からもうかがえるように、これからは自由貿易一点張りではなく、戦略的に貿易政策が展開される世界になっていくのではないかと思われます。そのような中、様々な貿易政策を水際で実際に「執行」している税関(←EPAやWTO協定、貿易円滑化、アンチダンピング、貿易管理など、本当に様々な貿易政策

を執行しています。)の役割は、今後ますます重要になると考えられます。

## 時代に応じた変化

時代が移り変わると同様、税関が担うべき責務も常に変化しているため、税関も組織として変化し続けることが必要です。近年は、越境電子商取引の広まりにより、国際物流のスピード、量ともに飛躍的な伸びがみられ、税関の業務量も大きく拡大しているため、最新技術を用いたより一層の業務の効率化、そして情報(インテリジェンス)に基づいた取締体制の拡充を図っていく必要があります。また、税関で一丸となって取り組んでいるところです。また、前述の経済安全保障についても、今後は、輸出面でも税関に求められる役割が大きくなるため、これに応じた組織の形を考えいかねばなりません。

「唯一生き残ることができる者は、変化できる者である」と言われます。令和4年11月、税関は150周年を迎えますが、明治開国以来、移りゆく時代に応じて変化を続けてきたからこそ、これまで組織として存続できたのだと思います。これからも、税関が水際で日本を支えるキープレイヤーで居続けられるよう、変化を恐れず、チャレンジ精神の旺盛な皆さんに税関の門を叩いていただされることを願います。

## My private time

最近はテレワークの浸透や技術の進展により、職場以外でも柔軟な勤務ができるようになっている反面、オンオフの切り替えが難くなっている面もあります。このため、勤務時間以外は仕事のことは忘れ、週末はキャンプに行くなど、オンオフのメリハリをつけるように努めています。また、テレワークが可能になり時間が有効に使えるようになったため、平日は勤務終了後にジョギング(散歩?)に出るようにもしています。初夏の夕方、都内で虫を発見できたのはまさにテレワークの恩恵といえるものでした。





松崎 貴弘  
MATSUZAKI Takahiro

関税局業務課上席調査官  
(知的財産調査室)  
平成24年度入省



山崎 恭子  
YAMASAKI Kyoko

関税局監視課鑑査専門官  
平成27年度入省

## 知的財産侵害物品の水際取締り

### 歴史と役割

今から150年前の明治5年(1872年)、日本で初めての鉄道が新橋・横浜間で開通し、横浜の街に初めてガス燈が点ついた頃、「税関」は産声を上げました。

知的財産を侵害する物品に対する税関の取締りは、明治32年(1899年)に施行された旧関税定率法において、「特許意匠商標及版権ニ関スル帝国ノ法律ニ違反シタル物品」が輸入禁制品として規定されたところから、その歴史が始まります。税関発足から27年、大日本帝国憲法の公布から10年、東京・大阪間で長距離電話が開通した年のことです。それから120年余り、環境の変化に合わせて、取締り対象とする知的財産権を拡大するなど、制度を拡充してきました。

知的財産侵害物品は、社会に流布すると、正当な経済活動の妨げになるだけでなく、消費者の健康や安全を脅かすおそれもあります。税関は、このような知的財産侵害物品が海外から流入することを防ぐために、水際で厳格な取締りを行っており、知的財産の保護に貢献しています。

### 変化への対応

税関150年の歴史の中で生じた大きな変化の一つに、コミュニケーション手段の多様化があると思います。東京・大阪間に長距離電話が開通した頃からみて、片手に収まるス

マートフォンでインターネットを介して世界とつながることができるというのは、驚くべき変化です。

これに呼応して、税関を取り巻く環境も大きく変化しています。その一つがインターネットを利用した国を跨いだ商品やサービスの売買、いわゆる越境電子商取引の進展です。財務省から公表しているデータをご覧いただくと、税関で輸入を差し止めた知的財産侵害物品の件数は、インターネット黎明期の平成7年(1995年)には1,395件だったところ、足下の令和3年(2021年)には28,270件となっており、大きく増加しています。一方、輸入差止件に含まれる知的財産侵害物品の点数は、平成7年には平均して約830点だったところ、令和3年には約30点となっており、大きく減少していることが分かります。これは、輸入される貨物が小口化しているということであり、個人によるインターネット通販の利用拡大が主な要因であると考えています。

このように社会の変化に応じて税関を取り巻く環境も変化していく中で、変化によって生じる新しい課題を把握し、税関において効果的・効率的な取締りを行うための手段を検討すること、これが私たち関税局・税関の重要な役割の一つです。

### 私たちの職場

私は現在、このような税関での知的財産侵害物品の取締りに関する施策の企画・立案を担当しており、業務を通して、たくさんの素敵なお人たちと知り合い、たくさんの得難い経験をしています。社会に貢献する機会と人として成長する機会を与えてくれる職場だと思っています。

### My private time

家族で合奏ができるのを夢見て、子供と一緒に(子供が望んでいるかはまだ分かりませんが...)バイオリンの練習をしています。バイオリンは、スポーツや語学のように地道なトレーニングが必要であり(カール・フレッシュ、クロイツベル...), レパートリーも多い(無伴奏、室内楽、協奏曲...)ため、自己鍛錬をしながら楽しんでいます。



## 安全・安心な社会の実現のために

### 効率的かつ効果的な取締りを目指して

「旅具(りょぐ)」という言葉をご存じでしょうか。馴染みの薄い言葉かと思いますが、「旅行の道具又は旅先での生活に使う道具」、すなわち「旅行者の荷物」を意味します。私は現在、関税局監視課「旅具係」として、出入国旅客の荷物の取締りに関する施策の企画・立案に携わっています。

一言に「旅客の荷物の取締りに関する施策」といっても、その内容は多岐に渡ります。例えば、飛行機を利用する旅客とクルーズ船やフェリーといった船を利用する旅客に対する最適な取締手法は同じではありません。また、規模の大きな港とそうでない港ではそれぞれが抱える事情も様々です。それらの違いを勘案しつつ、全国どここの空・海港から出入国する旅客に対しても高いレベルの取締りを実現するための施策を考えることは容易ではありませんが、執行の現場を担う全国の税関とも密接に連携・調整しながら検討しています。

また、検討に当たって連携・調整すべき相手は国内の税関のみではありません。特に現在の取締りに当たって重要な要素の一つに「情報」があり、日本税関の外から有力な情報を得るためにには関係業界や他国の税関との交渉や協力が不可欠です。執行の現場と最も近い距離でその実情を把握する我々が、外部の業界や他国との交渉などに積極的に

関与することは重要な業務の一つです。

### 旅行者の利便性向上を目指して

取締りに関する施策というと、旅行者にとって厳しい内容ばかりといった印象を受けるかもしれません。旅行者の利便性を向上させる側面を持つ施策も含まれます。例えば、近年のデジタル化やキャッシュレス化の潮流を踏まえ、旅行者の荷物に関する税関への申告方法としてスマートフォンなどを利用した電子申告、また、関税等の支払いにスマートフォン決済アプリを導入したことなどが挙げられます。

外国と日本を行き来する全ての善良な旅行者に、よりストレスなく、迅速に税関を通過してもらうことは「貿易の円滑化」に貢献することはもちろん、税関が取締まるべき者により集中できるようになることで「安全・安心な社会の実現」にもつながるのではないかと考えています。

### これまでの勤務を振り返って

財務省税関に入省以来、税関の現場や、関税局の中でも国際交渉を主に担当する係などを経て現在で8つ目の職場になります。まだ日々日々の業務に対して難しさを感じることも多いですが、勤務年数を重ねて少しづつ経験や知識を得たおかげか、面白みを感じる場面も増えてきました。税関行政あるいは関

税政策と一言にいってもその中身は本当に多岐に渡るため、専門性がありつつも飽きることがない仕事だと思います。

### My private time

休日は美味しいお菓子と珈琲を求めてカフェに行くことが多いです。友人のほか、同じ趣味を持つ上司や同僚が近くにいた時期は終業後に夜のカフェを梯子したこともあります。現在は外食が難しい時期も多いですが、落ち着いたらまた新たな仲間を見つけてそんな活動も再開できたらいいなと思っています。





国際交渉

## 各国の思惑が交錯する国際交渉の最前線で

### 日本政府交渉団の一員として

私は、現在、財務省においてWTO(世界貿易機関)交渉を担当しています。WTOでは、モノの貿易だけでなくサービスの貿易や知的財産権といった幅広い分野が扱われているため、外務省をはじめ多くの関係省庁が交渉に携わっています。財務省は幅広い業務を取り扱っていますが、WTOに特化した業務を行っているのは私の係だけであり、案件に応じ、省内で関係する部局とともにその対応について検討を行い、交渉に参加しています。

WTOでは、2021年11月末イスス・ジュネーブにおいて、加盟国の貿易担当大臣らが集まる閣僚会議の開催が予定されていました。しかし、会議の開催を翌週に控えた日本時間の土曜日になって、新型コロナウィルス変異種の感染拡大に伴うイスス国内の規制強化により、閣僚会議が延期されてしまいました。それまでは、閣僚会議における閣僚宣言などの合意文書作成のため、関係省庁とともにその対応について夜遅くまで協議を続けていました。

近年、WTOは機能不全に陥っているとの指摘もありますが、WTO加盟国の有志国によって新たな時代の要請に対応する貿易ルールの策定を目指した交渉なども進められており、財務省関税局・税関もこの交渉の一端を担っています。

### 幅広い視野と専門性を武器に

四方を海に囲まれた日本では、海外からやってくるモノは税関を通って日本国内に流通してきます。交渉を経て条約が発効すると、条約の規定が適用された物品が実際に日本に入ってくることになり、税関において必要な検査・審査を行うため、我々は、交渉段階から通関において問題が起きないよう、協定発効後の運用を見据えて交渉に参加しています。そのため、貿易の最前線を担う税関のエキスパートとして、交渉の合意事項がきちんと履行できるのか、実際の現場である税関で問題が起きないかという点を一つ一つ検討した上で交渉に臨んでいます。

関税局・税関を取り巻く環境は刻々と変化しており、過去の踏襲だけでは世界の流れに取り残されるおそれもあります。財務省税関で採用されると、関税政策の企画立案を担う関税局だけではなく、税関の現場、他省庁への出向、海外勤務など幅広い経験を積むことができます。税関分野の専門性を有しつつも、幅広い視野を持ち、世の中の動きにアンテナを張りながら、税関の3つの使命を胸に、「守るべきものは守る」、「必要な場合には変化に対応する」という柔軟性とバランス感覚をもって業務に取り組むことができるのが、関税局・税関の魅力ではないでしょうか。

### My private time

週末、天気の良い日には外に出かけ、仕事から離れて気分転換するようにしています。馴染みの喫茶店でモーニングを頼み、コーヒーを飲みながらその後の予定を考えることが週末のルーティーンとなっています。最近、中学生の時以来となる自転車を手に入れたことで自宅周辺での行動範囲も広くなり、ネットで近くの美味しい店を検索してはその店を訪れたり、サウナに行ってみたり(サ活)、リラックスして過ごすようにしています。



### 河村 健太郎

KAWAMURA Kentaro

関税局第一参事官室  
(国際交渉担当)  
世界貿易機関専門官  
平成16年度入省



国際協力

## 時代の要請に応え、世界標準をリードする

### 世界標準の策定、実施支援

税関の世界では、国際的な機関として、世界税関機構(WCO: World Customs Organization)があり、180を超える国・地域が参加し、民間企業が安心・円滑に貿易を行えるよう、手続きや所要時間の透明性、予見可能性を高め、なるべくシンプルにするための世界的な標準化、統一化に向けた協議や、不正薬物やテロ対策のための効果的な取締手法についての議論などが行われています。例えば、通関時ではなく後から税目的のチェックを輸入者に行う事後調査、輸入したい貨物の品目分類や税関評価について、民間企業が税関に確認する事前教示制度などは、WCOの場で議論・策定された「改正京都規約」という条約に定められています。また、9.11(アメリカ同時多発テロ)を踏まえ、テロ対策を目的として、貨物の情報を、船や航空機が出発する前に、船会社などが到着国の税関に連絡する仕組みができました。これも「SAFE基準の枠組み」というWCOのガイドラインに基づくものです。貿易円滑化やテロ対策など時代の要請を踏まえながら、貿易・経済の発展の基礎となるこうした世界標準の策定

### 柔軟な働き方

かつてはWCO事務局があるブリュッセルにて対面の会議が行われていましたが、今はオンラインに切替わっています。出張による移動時間は無くなりましたが、時差の問題があり、日本の夜の時間帯に会議があるのが通例です。その分、勤務時間はかなり柔軟に設定できますので、会議日は、午後からリモートで自宅から勤務開始ということもよくあります。

た。柔軟な発想、専門的知識をフル活用して、世界の議論を自らリードしていきたい方は一度、関税局・税関の門を叩いてみてはいかがでしょう。

### My private time

オンオフの切替、プライベートの充実は、仕事のモティベーション、効率化にとっても重要です。週末に子供と遊ぶのはもちろんですが、オフ時間は、パンクやハードコアといった音楽を聴く、ライブに行くこともあります。また、適度な運動も必要です。私の場合はバスケットボールをしています。最近は子供も大きくなつて一緒にプレイできるようになりました。

